

- * 「彼らはイエスを受け取った。そして、イエスはご自分で十字架を負って、「どくろの地」という場所(ヘブル語でゴルゴタと言われる)に出て行かれた。彼らはそこでイエスを十字架につけた。イエスといっしょに、ほかのふたりの者をそれぞれ両側に、イエスを真ん中にしてであった。ピラトは罪状書きも書いて、十字架の上に掲げた。それには「ユダヤ人の王ナザレ人イエス」と書いてあった。(ヨハネ19:17~19) ユダヤ人たちは「王と自称したと」書いて欲しいと改ざんを要求するが、ピラトは、私が書いたことは真実だからそのままにしておけ、と言う。それまで本心を曲げてユダヤ人たちの言うことを聞いてきたが、最後に面目を保った。
- * 「さて、兵士たちは、イエスを十字架につけると、イエスの着物を取り、ひとりの兵士に一つずつあたるよう四分した。また下着をも取ったが、それは上から全部一つに織った、縫い目なしのものであった。」(9:23) 詩篇22:18に記されていたみ言葉が今成就しているのを知らずに、ただ自分たちの役得、目先の利益に夢中になっている4人の兵士たちの姿である。十字架を見上げず、世のこと、自分の事ばかりに目が行っている自分と重ならないだろうか。
- * 「兵士たちはこのようなことをしたが、イエスの十字架のそばには、イエスの母と母の姉妹と、クロパの妻のマリヤとマグダラのマリヤが立っていた。イエスは、母と、そばに立っている愛する弟子とを見て、母に「女の方。そこに、あなたの息子がいます」と言われた。それからその弟子に「そこに、あなたの母がいます」と言われた。その時から、この弟子は彼女を自分の家に引き取った。(19:25~27) 4人の兵士とは対照的に、十字架のそばに立って悲しむ4人の女性の姿がある。イエスは十字架の上から、母マリヤと「愛する弟子」(おそらく筆者ヨハネ)に対して新しい家族になるように言われる。現実の生活面や血のつながりによる家族ではなく、十字架を見上げて、イエスの愛を受け入れ、イエスに従う者はだれでも家族なのだ、ということを示されたのである。「天におられる私の父のみこころを行う者はだれでも、わたしの兄弟、姉妹、また母なのです。」(マタイ12:50) この新しい家族が教会である。主の十字架が信じる者を結び付け、私たちをひとつにするのである。